

事業所名

キッズサポートつみきのおうち

支援プログラム

作成日

令和7年

2月

1日

法人（事業所）理念	子どもたち、そして支援する職員がいつも笑顔で家庭的な場所（安心できる・くつろげる・自分らしくいられる）であり、遊びや生活の中での経験値がその後の生活の基盤となることを踏まえ、子どもたちの今と将来が明るいものであるために今困っていることから、生きづらさの軽減や社会に対応できる「生きる力」を創る為の場所でありたい。				
支援方針	日常生活の中で困っている事や苦手なことに対して、訓練や練習だけでなく、「遊び」を通して楽しく学びながら、自分で考え挑戦する姿勢や好奇心、意欲を引き出す支援（子どもたちの自発性や本来持っている力を引き出していく。） 発達段階に合わせた遊びや学びの中から、自ら楽しみを見出し成長する力を育む。				
営業時間	8時	30分から	18時	30分まで	送迎実施の有無 ○あり なし
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	普段の生活の中で「服の着脱・身の周りの整理整頓・清潔・手洗い・排泄・衣服の調節経験・生活リズムの獲得」など実際の生活に基付き普段から身に着けられるように支援している。また、活動の中では「クッキングでの食への興味関心・手指の発達を促すために制作や微細運動や新聞紙遊びなど・感覚遊びにて色々な刺激からの五感の発達促進・季節の行事の中で身近な生活内容に触れて日々の生活の中での興味関心・生活の中でのスキルの獲得」を目指し行っている。			
	運動・感覚	運動・動作の技能獲得を目指すために運動活動の中で体を思いっきり動かす事や場面に合った動きを行う練習を活動にて行っている。また、姿勢保持や感覚を十分に刺激する「触覚だけで物を当てる活動や聴覚を刺激し聞く活動ゆっくり・そっとの動きや粗大運動・微細運動などで色々な個所からの刺激を入れている。その子に合った感覚支援を行い、押し相撲・風船バレーなどの2つの行動を同時にするゲームなど年齢に合わせて活動に入れている。			
	認知・行動	物の機能や属性・形や色などを知る機会を普段の中で活動に入れ込み、「色水遊び・仲間分けゲーム・ジェスチャーゲームなど」を取り入れています。また、感覚や認知の偏りをなくしコミュニケーションの困難性から生じる行動障害の予防や色々な行動の経験ができるように「伝言ゲーム・ジャストタイミングなど」を行っている。			
	言語コミュニケーション	「お買い物体験・鬼ごっこなど」の活動で人とのコミュニケーションの向上や状況に応じたコミュニケーションの向上を目指し、「読み聞かせ・言葉遊び等集団ゲームに個別支援の読み書きや運筆などの練習」で読み書きの基礎向上や言葉の獲得を支援しています。また、「吹いて遊ぼう・風船飛ばし・吹くゲームなど」で口腔機能の発達の促しを行っている。			
	人間関係社会性	愛着形成と安定を基に子どもたちとの信頼関係を築き「安心できる場所」としての確保と情緒の安定の中で相談できる相手の確保を目指しています。また、遊びを通じた社会性の発達を目指し「オセロ・トランプ・模倣遊び」などでルールや手順を身に付け、他者とのコミュニケーションを取りつつ社会性を身に着ける場の提供や仲間作りの支援をしています。加えて、「戸外遊び・公共施設へのお出かけ・行事等への参加・お買い物」などでさらなる社会性を身に着けて将来必要なスキルを身に付けられるよう支援している。			
家族支援	家族支援加算での面談や家族連携加算での見学/直接支援。 保護者面談とSNS・電話対応での悩み相談を随時行っている。 自宅での困りごとの解決策の家庭での支援アドバイス。学校での困りごとの共有。	移行支援	通学中の学校との連携にて、面談や送迎時（関係職員が引率の場合等、その日の様子や状況の聞き取り）の連携。学校での困りごとや解決方法の共有や就学・進学に向けての共通目標の作成や途中経過等の共有により就学や完全移行等に向けた支援を行う。		
地域支援・地域連携	子どもや家族を中心に支援を進めていき、学校を中心に他福祉施設との連携を行う。また、子どもの生活に合わせて、切れ目ない支援を進められるよう務めている。地域行事等への参加。（秋まつり・ウォーキング大会）	職員の質の向上	研修・ケースカンファレンスなど （常に子どもたちの発達と発達に合った遊びを考え、発達の特性や子どもたち一人ひとりの現状の把握と共通理解を深め活動の振り返りや話し合いを行う。）		
主な行事等	季節のイベント（七夕・ハロウィン・クリスマス・節分）は随時活動に入れ込んでいる。 お話会（市立図書館）毎月参加・長期休暇中の1日お出かけイベント・保護者会（保護者懇親会）・避難訓練（火災・地震・水害・不審者想定）など				